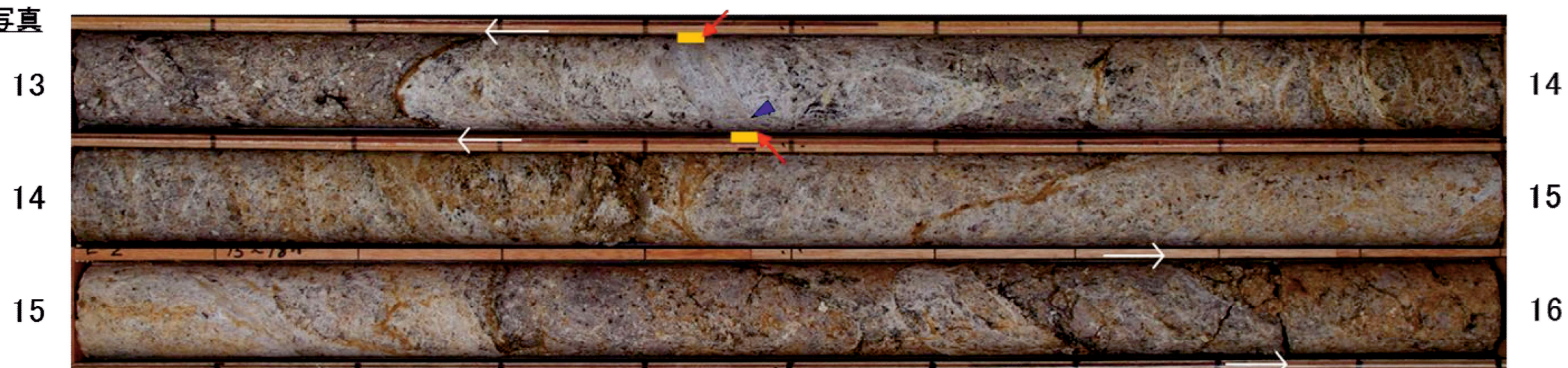


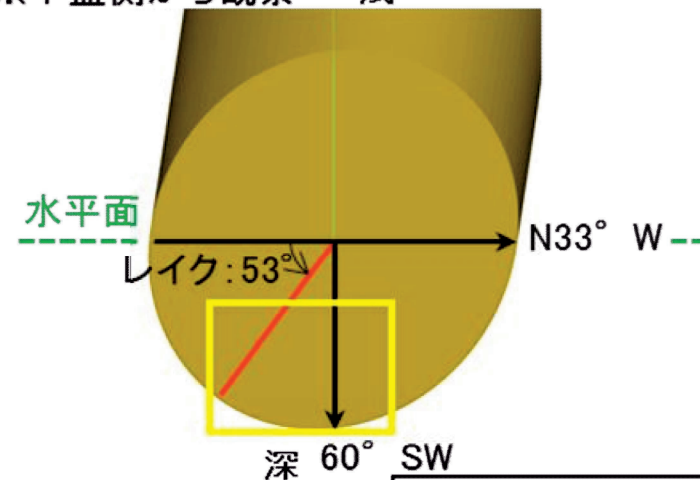
H24-E-2 深度13.23~15.82m 最新活動面の走向・傾斜 (No.3) の変更に伴い、条線方向 (No.4) を変更

- H24-E-2孔 深度13.46mのK断層の断層面の走向・傾斜は、N33°W60°SWであり、53Rの条線が認められる。

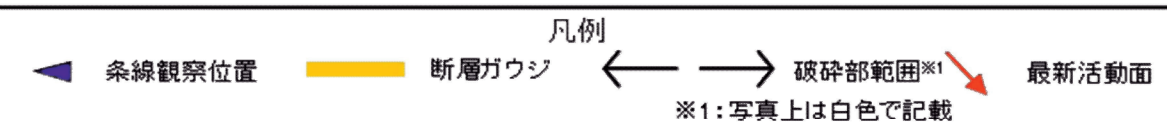
コア写真



※下盤側から観察 浅



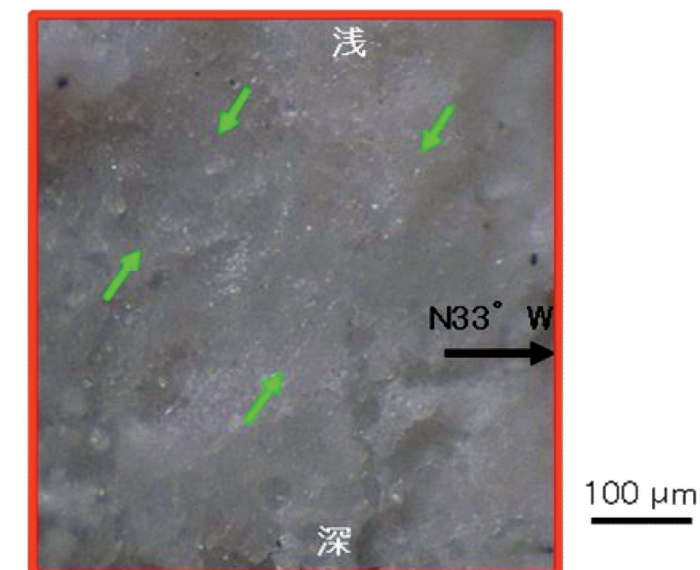
- 前頁の図3に、計測した条線値を走向・傾斜等を用いて補正したレイクを赤線で表示している。
- 下盤側から最新活動面を見た模式図のため、レイクがL方向に描かれているが、数値は上盤側から見た53Rとなる。



※1: 写真上は白色で記載



条線観察位置拡大



赤枠内拡大

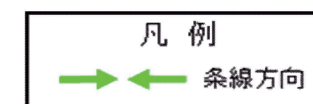
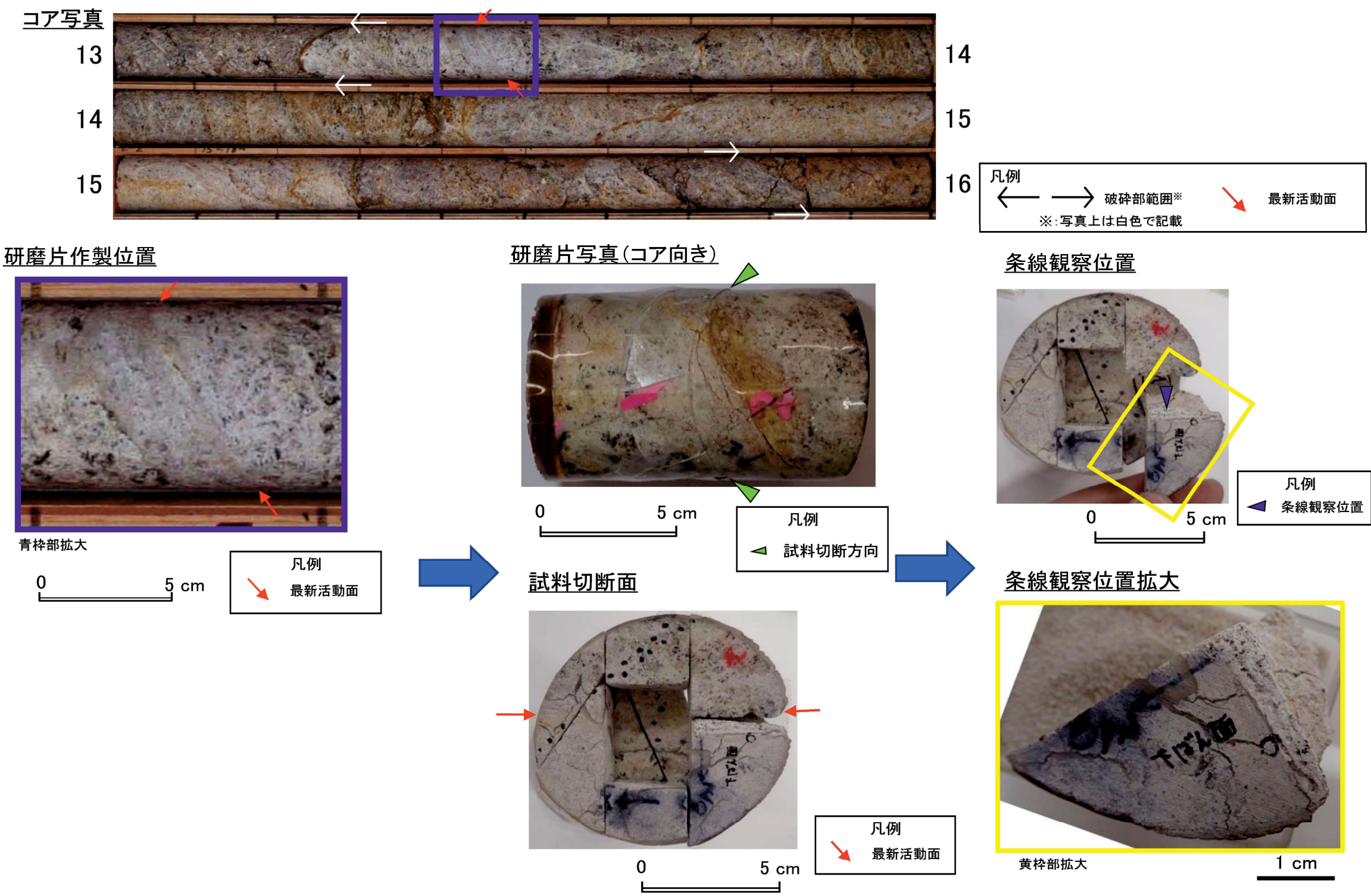


図4 最新活動面と走向・傾斜、条線の関係図

H24-E-2 深度13.23～15.82m 最新活動面の走向・傾斜（No.3）の変更に伴い、条線方向（No.4）を変更

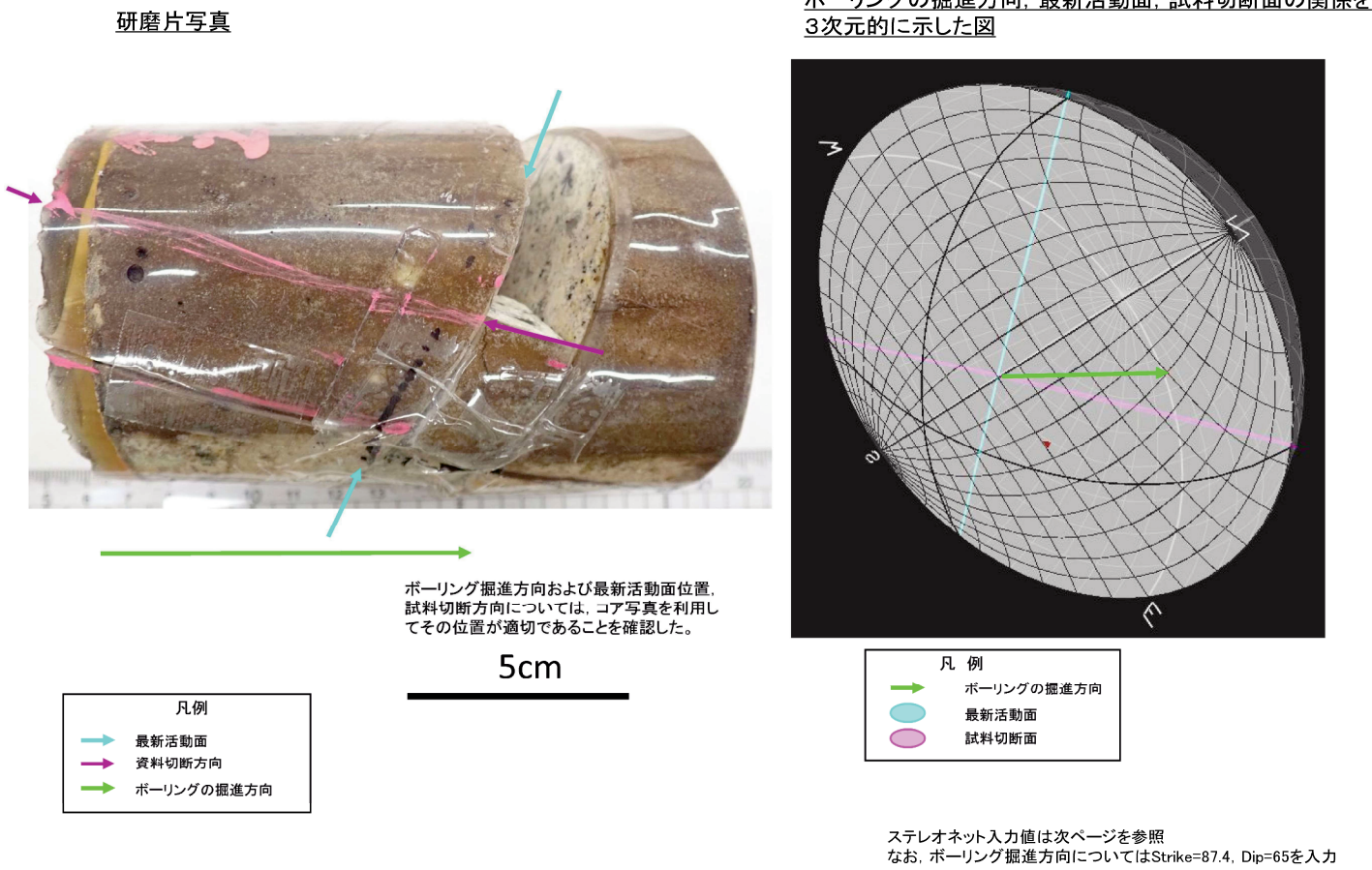
- 条線観察位置が最新活動面であることを残試料を用いて確認した。



H24-E-2 深度13.23～15.82m 切断方向を変更し、薄片試料（No.5）を再作製

- 薄片試料の作製箇所が適切か確認したところ、最新活動面と直交する方向から60°程度斜交した方向で作製していることを確認したため、再作製を行い観察を行った結果に変更した。
- なお、再作製した薄片観察による変位センス（右ずれを伴う逆断層）、断層岩区分の評価（断層ガウジ）は既往薄片と同じであったことから、連続性評価に用いるデータに変更はない。
- 再作製した薄片試料の試料切断方向は以下の通り（最新活動面に直交で、かつ、条線方向に平行）である。
- 右の図はボーリングの掘進方向、最新活動面、試料切断面の正しい位置関係を図にしたものである。正しい位置関係とは、「試料切断面は最新活動面に直交で、かつ、条線方向に平行」の条件を満たすものである。試料で再現した3つの位置関係が図と相違ないことから正しく切断されていると判断した。（条線は最新活動面上で確認されているため、本ページでは表現されていない。）

試料切断方向確認資料(H24-E-2孔 深度13.46m)



H24-E-2 深度13.23～15.82m 切断方向を変更し、薄片試料 (No.5) を再作製

- 再作製した薄片試料の作製箇所について、試料の切断方向を確認し、下記の試料切断面写真に示したX方向、Z方向が正しいことを確認した。
- 右の図はボーリングの掘進方向、最新活動面、試料切断面、X方向、Z方向の正しい位置関係を図にしたものである。正しい位置関係とは、「試料切断面は最新活動面に直交で、かつ、条線方向に平行」の条件を満たすものである。試料で再現した5つの位置関係が図と相違ないことから正しく切断されていると判断した。

試料切断面方向確認資料(H24-E-2孔 深度13.46m)

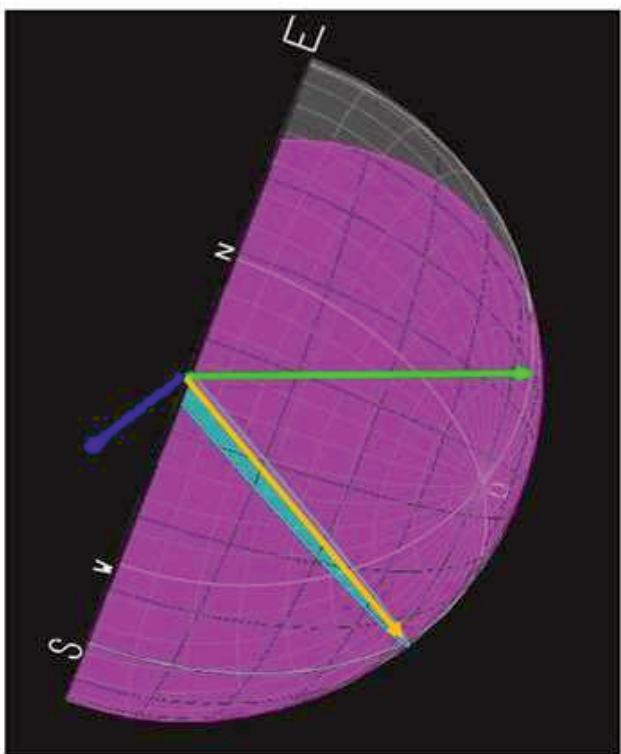
・薄片作製位置は、肉眼観察により認定した最新活動面に沿って最も細粒化した部分を含み、試料の人為的な乱れのない箇所であることを確認した。



凡例

- 最新活動面
- X方向
- Z方向
- ボーリングの掘進方向

ボーリングの掘進方向、最新活動面、試料切断面の関係を3次的に示した図



凡例

- X方向
- Z方向
- ボーリングの掘進方向
- 最新活動面
- 試料切断面

X:条線方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

ステレオネット入力値は次ページを参照
なお、ボーリング掘進方向についてはStrike=87.4, Dip=65を入力